２０２２年１０月１６日（聖霊降臨後第１９主日、特定２４、C年）

牧師メッセージ

「気を落とさず祈り続ける」

（ルカによる福音書18:1-8）

司祭ヨセフ太田信三

先週の福音では、信仰とは、物事の先に働かれる神を見る目であることが示されました。その目をもって世界を見る信仰者は、この世界に実際に働かれている神を見、神とともに生きることになります。神との交わりに生きるなら、そこにおられる神との会話である「祈り」が不可欠なものとなります。それゆえ、信仰者の特徴とは「祈り」なのです。

しかし、祈り続けることは難しいとつくづく感じます。日々の煩わしさのなかで、神を見失ってしまったり、自分の祈りなど聴かれていないのではないかという疑いから、祈ることをやめ、神との交わりから離れてしまう…。それがわたしたちの現実ではないでしょうか。しかし、そういう人間のことを主イエスはよくご存知だからこそ、「気を落とさずに絶えず祈らなければならない」ことを教えてくださいました。

やもめは、自分を守るもの、保護するものが何もない、極めて弱い立場を象徴する存在です。その軽んじられた命の唯一の武器は、「しつこさ」でした。彼女は「神を畏れず人を人とも思わない裁判官」のところに通い続け、訴え続けます。結果、そんな裁判官であっても、やもめのしつこさに押され、彼女に目を向けざるを得ないところまで追い込まれます。まして神は、しつこく祈る者から目を背けるはずがない、神は必ず祈りを聞き届けてくださるのだから、落胆せず祈り続けなさいと、主イエスは励ましたのです。今日の旧約聖書が強調することも「しつこさ」です。食い下がるヤコブを主は祝福し、イスラエルという新しい名を授け、新たな命を与えました。もちろん信仰も、希望も、すべてわたしたちの行いによって獲得されるものではありません。わたしたちの目が開かれるのは、神がわたしたちと常に共におられるからこそです。神が常に共におられるからこそ、わたしたちは信仰の目が開かれるならいつでも、神を見出すことができるし、祈ることができるのです。

いつもわたしたちと共におられる神は、必ずわたしたちの祈りを聴いてくださいます。神がその祈りにどのように応えてくださるかは分かりません。しつこさだけが武器であったやもめのように、祈り続け、神との交わりに身を置き続けることでしか、それは分からないのです。しかし神は必ず、わたしたちの想像を遥かに超えて、祈りに応えてくださいます。気を落とさず、祈り続けられますように。